

目的 現在、市販されている衣料革は、種々な動物皮を用い、異なった方法で製造されており、その性状が一様でない。そこで、衣料素材としての革の製造方法、品質規格などを確立することを最終目的として、一連の研究を進めている。さきに、市販されている衣料革の一般性状について報告したが、今回は、衣料材料として重要な洗たくに対する堅ろう性について検討した。

方法 試料革は、成牛革1種、小牛革3種、豚革2種、山羊革4種、羊革3種の計13種類を用いた。洗たく試験は、JIS K 6552 に準じてウエットクリーニングおよびドライクリーニングを行い、試験片の洗たく前後の面積、剛軟度を測定した。さらに、試験片の洗たくによる変退色と添付白布の汚染の程度を、変退色用グレースケールまたは汚染用グレースケールと比較し、染色堅ろう度を判定した。

結果 革の面積は、ウエットクリーニングにより減少するが、ドライクリーニングでは増加する傾向である。剛軟度は、ウエットクリーニングにおいては変化がないか、いくぶん増加する程度である。しかし、ドライクリーニングではほとんどの革が減少する傾向であり、柔軟性が保たれている。洗たくに対する染色堅ろう度試験での変退色は、革の色調によって異なり、濃色において変化が小さいが、淡色において大である。添付白布の汚染の程度は、濃色において大きく、特に、塗装された革でドライクリーニングしたものは汚染が著しい。また、添付白布の汚染は、ウエットクリーニング、ドライクリーニングともに綿が著しく、逆に、アセテートが汚染されにくいことを認めた。